

風しんにご注意ください！

風しんは、平成25年に関東地方を中心に流行し、患者の7割以上が男性でした。

年齢別にみると、男性では20代～40代が約8割、女性では20代～30代が約6割を占めています。

愛媛県内では、例年、患者報告はほとんどありませんでしたが、平成25年は32件の報告がありました。

風しんは春から初夏にかけて流行するため、注意が必要です。

「風しん」とは？

1. 主な症状：①発熱（38から39℃） ②小紅斑や紅色丘疹 ③リンパ節腫脹（全身、特に頸部、後頭部、耳介後部）
2. 感染経路：患者のくしゃみや咳によって飛沫感染します。
3. 潜伏期間：感染から14～21日

- ⚠ 子どもの場合は、ほとんど軽くすみませんが、大人が感染すると重症化することがあります。
- ⚠ 免疫のない妊婦さんが妊娠初期に感染すると、赤ちゃんの「先天性風しん症候群（白内障、先天性心疾患、難聴）」の原因となることがあります。

妊婦さんへの風しん感染を防ぎましょう！

1. 妊娠中の女性は、風しんの予防接種を受けることができません。

- ・ 妊婦は、妊娠初期の妊婦健診で風しんの抗体検査を実施します。
妊娠中は風しんの予防接種ができませんので、抗体価の低い場合は、感染予防のため無用な外出は控えてください。

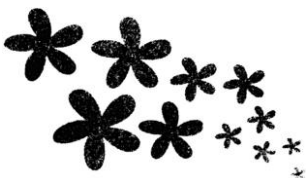
<妊婦の夫、子ども、その他同居の家族の方へ>

2. 風しんの感染予防に、「予防接種」をご検討ください。

- ・ 風しんに罹ったことがない方、予防接種を受けたことがない方、風しん抗体が陽性と確認できていない方は、できるだけ早く任意での予防接種をお勧めします。（有料）
- ・ 1歳児や年長児（小学校就学1年前）の子どもさんは、麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）の「定期予防接種」の対象年齢ですので、必ず予防接種を受けてください。（無料）

3. 予防接種の必要性は、抗体検査で分かります。

- ・ 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで、松山市風しん抗体検査事業を実施します。
『風しん抗体価の低い妊婦の配偶者など同居の家族の方』は、県内の指定医療機関で風しん抗体検査を無料で受けることができます（※ただし、風しんにかかったことがある方、予防接種を受けたことがある方、風しん抗体検査を受けたことがある方は除きます）。
- ・ 検査の結果、抗体価が低い場合は任意での予防接種をお勧めします。（有料）
- ・ 詳しくは、松山市ホームページ(<http://www.city.matsuyama.ehime.jp/>)をご覧ください。



＜お問い合わせ＞

松山市保健所 保健予防課 感染症対策担当

電話 911-1815